

令和2年度 深谷市地域公共交通会議 (埼玉県深谷市) (地域内フィーダー系統確保維持事業)



| | |
|---------------|------------------------|
| 面積 | 138.41 km ² |
| 人口 (R2.4.1時点) | 143,097 人 |
| 15歳未満 | 18,701 人 |
| 65歳以上 | 41,385 人 |
| 高齢化率 | 28.9 % |
| 世帯数 | 60,407 世帯 |

交通計画の策定年月日

平成31年3月26日

協議会開催状況

- 協議会の開催状況 4回開催
- ・第1回(5月14日)
令和元年度決算及び令和2年度歳入歳出予算について
 - ・第2回(7月22日)
深谷市生活交通確保維持改善計画(案)について
 - ・第3回(9月9日)
デマンド再編計画策定業務のスケジュールについて
令和2年度作成 交通不便地域図の作成について
 - ・第4回(12月16日)
市民アンケート、利用者アンケートについて
 - ・第5回(2月3日予定)
事業評価について

地域の公共交通等の現況

本市では、JR高崎線と秩父線の2つの鉄道路線に、合わせて7駅が整備されている。また、路線バスとして深谷赤十字病院～籠原駅間、深谷駅～寄居車庫間及び本庄駅～寄居車庫間の3路線が運行している。深谷市コミュニティバス運行地帯は、旧深谷市において、高齢者などの運転免許を持たない人等の交通手段の確保策として、平成12年度から本格運行を開始した。平成18年に深谷市・岡部町・川本町・花園町の1市3町で合併したことから、平成20年4月から運行エリアを拡大し、平成22年度には旧3町を対象に事前予約型を導入した。平成27年4月からコミュニティバスを「くるリン」と称し、令和2年4月から定時定路線が再編され運行している。

交通計画の目指す概要／地域公共交通に関する施策・取組の概要

今後、さらに進行する人口減少・高齢社会に対応し、高齢者や運転免許を持たない交通弱者の移動手段を確保するため、鉄道及び民間バス路線を維持確保しつつ、これらを補完するコミュニティバスにより交通空白地帯の解消を図り、市民にとって質の高い生活を維持するためにも、都市拠点、地域拠点、交流・連携拠点等を中心に結ぶとともに、市外への移動も視野に入れて、広域的な結びつきを強化する公共交通のネットワークの形成をめざす。

交通施策として実施した事業の全体像の概要

深谷市コミュニティバス「くるリン」の現運行は平成27年から開始し、定時定路線の運行ルートを見直すとともにデマンドバスの運行を市内全域に拡大し、令和2年4月から新運行体制に再編し深谷駅と主要拠点を結ぶ速達性の高い直行型の運行ルートとした。利用者の利用促進につなげるため、住民からの依頼があった際には随時、コミュニティバスの利用方法について出張講座を開催し、適切な利用を促しつつ周知を行っている。

補助対象事業の概要

既存の鉄道路線及び民間路線バスを市内又は市外の地域を結ぶ地域間交通ネットワークとして位置づけ、コミュニティバスは深谷市全体を広く網羅する交通手段として運行する。交通空白地帯を解消するため、JR高崎線の深谷駅を中心に定時定路線を4路線運行(内1路線が補助対象)するとともに、市内を北部地区、南部地区、岡部地区、川本地区、花園地区の5地区に分けてデマンドバスを運行している。

【コミュニティバス「くるリン」
【北部定期分】 令和元年10月～令和2年3月
 事業者名:(株)協同バス
 運行系統:北部定期便 17.5km
 運行本数:北部定期便 12便/日
【北部シャトル便】 令和2年4月～令和2年9月
 事業者名:花園観光バス(株)
 運行系統:北部シャトル便①7.0Km②7.3Km
 運行本数:北部シャトル便 20便/日

【コミュニティバス「くるリン」デマンドバス】
 事業者名:花園観光バス(株)、深谷タクシー(有)
 運行区域:北部、南部(花園観光バス(株))
 岡部、川本、花園(深谷タクシー(有))
 運行日:毎日運行(12月29日～1月3日運休)
 運行本数:ダイヤを設定せず予約に応じて運行
 運行車両:ワンボックス車両(9人乗り)5台
 運賃:1日200円(令和元年10月～令和2年3月まで)
 1乗車200円(令和2年4月～)

前回の事業評価結果の反映状況

- ・市民アンケート、公共交通利用者アンケート調査実施
- ・深谷市地域公共交通網形成計画の策定
- ・深谷市コミュニティバス「くるリン」再編計画の策定

定量的な目標・効果

【目標】

- i) 利用者数の増加 62,477人
- ii) 利用者満足度の上昇 前年度調査以上の満足度
- iii) 収支率の向上 14.3%
- iv) 車椅子利用者数 6人

【効果】

- i) 交通空白地帯の解消
- ii) 交通弱者の目的地までの足の確保
- iii) 鉄道や民間路線バスとの連携によるネットワーク構築
- iv) 財政負担に配慮した持続可能な交通体系の実現



目標・効果の達成状況

【利用者数の増加】

利用者数: 19,139人

- ・平成27年度に定時定路線の運行ルート並びに運行本数の見直し、及びデマンドバスの拡充を実施、令和2年4月から定時定路線を再編し新運行している。自治会への説明会や広報活動を通じ、市民への周知をしているが、新型コロナウイルス感染症の影響で、利用者数は約70%減少し、目標を達成することができなかった。

【利用者満足度の上昇】

○定時定路線: 達成1、未達成5

(単位: %)

| | ①バス停 | ②行き先 | ③運行本数 | ④運行時間 | ⑤定時性 | ⑥運賃 |
|-----|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| R2 | 55.8 | 45.9 | 43.5 | 44.9 | 58.2 | 58.7 |
| R1 | 71.4 | 66.2 | 56.9 | 70.2 | 55.1 | 77.9 |
| 前回比 | ▲15.6 | ▲20.3 | ▲13.4 | ▲25.3 | 3.1 | ▲19.2 |
| 目標 | 未達成 | 未達成 | 未達成 | 未達成 | 達成 | 未達成 |

○デマンドバス: 達成1、未達成6

(単位: %)

| | ①バス停 | ②予約システム | ③予約センター | ④予約電話 | ⑤運行時間 | ⑥定時性 | ⑦運賃 |
|-----|-------|---------|---------|-------|-------|-------|-------|
| R2 | 53.3 | 48.3 | 53.1 | 49.1 | 49.6 | 53.8 | 55.9 |
| R1 | 76.9 | 55.2 | 82.1 | 24.8 | 91.4 | 84.7 | 80.9 |
| 前回比 | ▲23.6 | ▲6.9 | ▲29.0 | 24.3 | ▲41.8 | ▲30.9 | ▲25.0 |
| 目標 | 未達成 | 未達成 | 未達成 | 達成 | 未達成 | 未達成 | 未達成 |

【収支率】

収支率: 15.7%(対象: 北部定期便R1.10~R2.3 北部シャトル便: R2.4~R2.9)

- ・前年度に比べて改善され、目標を達成できた。

【車両取得に係る目標: 車椅子利用者数】

目標利用者数6人に対し、車椅子利用者数は2人であり、目標を達成できなかった。

アピールポイント

- ・定時定路線は深谷駅で相互に乗継ができるようダイヤを編成。
- ・買い物・通院に利用しやすい運行ルートにするため、市民が日常的に利用する主要な商業施設・医療機関を運行するルートにした。
- ・定時定路線の持続可能性を高めること及び交通事業者の負担軽減を視野に入れ効率的な運行をするために、運行時間帯を短縮し、運行便数の増便を図った。
- ・市民の安定的な移動手段とするために、定時定路線バスは、バス停留所における定員超過が発生することのないよう輸送力強化し、定員12人から28人乗りにした。

今後の改善点

平成27年度に運行事業の再編を実施してから5年が経過し、市民への定着が進んだ。令和2年4月から定時定路線バスの運行を再編し、利用者数の増加を見込んでいたが、新型コロナウイルス感染症の増加により、国の緊急事態宣言が発令されたことにより、不要不急の外出自粛及び学校の休校、テレワークの推進などにより、4月からの利用者が激減したため、利用者数は目標を達成することができなかった。また、利用者満足度は13項目中2項目は前回の満足度を上回ることができたが、これまでの調査に比べ満足度の向上を図ることができなかった。収支率については、運賃をこれまで1日乗り放題から、4月以降1回乗車200円、定時定路線バスについては、2キロ未満100円、2キロ以上200円と運賃改定を行ったことにより、目標達成できた。今後も地域における望ましい公共交通ネットワークを示すため、『深谷市地域公共交通網形成計画』や『深谷市コミュニティバス「くるリン」再編計画』にある基本的な考え方により、引き続き自治会における説明会や広報活動を行い、市民のバスき利用に対する理解を深め、利用者の増加等に繋がるよう情報提供に努めていく。